

1 名古屋市立幼稚園の今後のあり方に関する実施計画（案）について

市立幼稚園の閉園計画を白紙にもどすべきではないか

【くれまつ議員】 通告に従い、順次質問します。初めに、名古屋市立幼稚園の再編計画について、教育長に伺います。

4月26日、名古屋市教育委員会は、名古屋市立幼稚園のうち3つの園を平成34年度末までに閉園し、市教育館に幼児教育センターを設置するという「名古屋市立幼稚園の今後のあり方に関する実施計画（案）」を発表しました。現在、今月26日まで市民意見の募集が行われています。市立幼稚園の再編計画の検討がなされたのは、一昨年。保護者アンケートやあり方懇談会などをもとに、昨年幼児人口の減少傾向に対応するという理由で幼稚園の再編を行う方針案が出されました。そして今回、北区の報徳幼稚園、中川区のはとり幼稚園、西区の比良西幼稚園の閉園が発表されました。保護者への説明は、教育こども委員会の開催された4月26日の翌27日と28日。突然の説明会で、時間も1時間足らず。保護者からは「突然こんな話をするなんて、もっと前から言うべきだ」「二人目も入れたいと思っていたのにひどい」怒りの声続出だったことは、一昨日、わが党の代表質問で述べた通りです。中には、「1回の説明では納得できない」と、保護者からの強い要望で再度説明会を開くという園もあります。幼稚園閉園の計画を一方的に聞かされた保護者のあいだでは、3園の存続を求める署名運動が急速に広がり、この1ヵ月余りで2万筆を超える署名が集まっています。

なぜ、市立幼稚園を3つ閉園するのか、閉園理由として、教育委員会は、「この先10年で幼児人口が13.5%減少するから、市立の幼稚園の数もそれに合わせて減らす。市内幼稚園23園のうち3園へらす」と実施計画で説明しています。確かに園児の数が少ない園がありますが、幼稚園を3つなくすという計画について、保護者の方は納得されているとはいえません。閉園は中止し、幼稚園を残してほしい。これが多くの保護者の皆さんの声です。

今回の市立幼稚園の閉園計画案を作成するまでに、教育委員会は、市民の皆さんの声、パブコメの声をきちんと聴いてこられたのでしょうか。

一昨年行った、市立幼稚園の保護者アンケートでは、1000名中6割の方が、「これ以上幼稚園をへらさないでほしい」と答えています。昨年示された市立幼稚園の閉園計画に対するパブコメでは、707人1444件というパブコメの数としては多い方だと思いますが、「市立幼稚園をこれ以上へらしてほしくない。市立幼稚園の良さをこれからも残してほしい。安易に統廃合すべきではない。」「市立幼稚園の良いところは、一人

一人の成長段階に合わせた教育をしてくれる、園が開放的で親同士の交流が多く、子どもの様子がよくわかる点である。1園でも存続させてほしい。」などと閉園計画の見直し、幼稚園の存続を求める声が多数しめていたのではないのでしょうか。

そして、市立幼稚園の評価については、「市立幼稚園の教育内容、質の高さと授業料のバランスに引かれて子どもをいれた」「こどもたちにとって良い環境で充実している」教育実践が評価されていました。パブコメでも市立幼稚園の教育が高く評価されています。

幼稚園の存続を求める保護者の願いにこたえて、はとり、報徳、比良西、3つの市立幼稚園の閉園計画を白紙にもどすべきではないでしょうか、教育長の見解を伺います。

2 敬老パスの利用拡大について

私鉄への拡大に必要な24億円をどう評価しているか

【くれまつ議員】次に、敬老パスの私鉄への利用拡大について、健康福祉局長に伺います。

先の市長選挙で、河村市長は「名鉄、JR等への利用導入検討」を公約され、一昨日の代表質問では、市長は公約を守ると答えられました。これを踏まえて、私鉄への利用拡大の実現を求めて質問します。

今回、私は、6月に、名鉄瀬戸線沿線にお住まいの方62人を訪ね、敬老パス制度の拡大について聞き取り調査を行いました。

65歳以上の方は、47名、そのうち敬老パスは39名の方がおもちでした。敬老パスの使用目的は、様々でした。お買い物や食事、通院、家族・友人に会いに行く、健康教室や習い事、野球観戦など娯楽、社会活動と、日常生活に欠かせないものとなっています。「できるだけ敬老パスを使っておでかけするように、気を付けている」という80代の女性は、元気にいきいきと答えられました。

名鉄やJRで敬老パスが使えるようになった場合、名鉄やJRを利用するかどうか、お尋ねしたところ、39名中33名の方は、敬老パスを使って名鉄を利用すると答えられました。

「市バスに乗っている人は、瀬戸線で使えればありがたい」と名鉄への拡大を歓迎する声をお聞きしました。名鉄では使えないために、「敬老パスは利用価値がない」ときっぱりと答える90代のご夫婦は、「ひきこもりにならないように、名鉄電車で大曽根のショッピングセンターに週3回でかけている。敬老パスが名鉄でも使えたらありがたい」という声もありました。

敬老パスを持っておられない方8名にも、名鉄で敬老パスが使えるようになれば、敬老パスをもらって、名鉄で出かけるかどうかをお聞きしました。健康上の不安がある方4名は、敬老パスはいらないとお答えされましたが、健康上の不安はなく、車で移動している方4名は、敬老パスをもらって、名鉄を使うと答えられました。

また、65歳未満の方にも、名鉄への利用拡大を望むかお聞きしたところ、15人中14人が拡大に賛成でした。お一人は、タクシー券がよいと回答されました。50代の女性は、「65歳になるのが楽しみ。敬老パスが景気よくしている。元気なうちにパスをもらって、お出掛けに使いたい。名鉄の拡大は大賛成」と沿線の住民は利用拡大を熱望しています。「SLやお城にお金をかけるより、敬老パスの拡大に使ってほしい」という、声も聞かれました。

名鉄沿線の市民の中では、62人の訪問聞き取り調査でしたが、対象交通の拡大に51名が賛成し、名鉄への拡大の期待が大きいことが、明らかになりました。現在わが市議団では守山区の名鉄とJR新守山駅沿線への敬老パスアンケートを実施中ですが、市周辺部の南区、中川区、緑区でも名鉄、JR、近鉄、三重交通と私鉄への利用拡大の期待は大きいのではないのでしょうか。

私鉄への利用拡大についての課題は、事業費がどれだけ必要となるかです。名古屋市は、昨年夏、65歳以上の高齢者3000名対象に交通行動調査を実施し、私鉄への利用拡大に係る事業費は0.95～1.17倍となることを明らかにしました。平成29年度の敬老パス事業費140億円にあてはめると追加の事業費は最大で24億円です。以前の調査では、約50億円と試算されていたので、ざっと半分程度で済むこととなります。

市の周辺部など、私鉄が公共交通として走っているところでも、敬老パスの恩恵が受けられるようにするには、それほど莫大な費用がかからないということがわかったのではないのでしょうか。

そこで、健康福祉局長に伺います。私鉄拡大のために必要な事業費試算額24億円について、どのように評価されているのか、お答えください。

私が行った私鉄への拡大についての聞き取り調査では、「負担金はあげないで、65歳も守って拡大してほしい」との声がありました。河村市長のマニフェストでは、「敬老パス値上げ絶対ストップ」との公約もあります。敬老パスの私鉄への利用拡大にあたっては、65歳からの交付を堅持し、一部負担金の引き上げなど利用者への負担増を行わず、検討していくべきと考えますが、どのような考え方で、どのように検討をされるのか、健康福祉局長の見解を伺います。

以上で、私の第1回目の質問を終わります。

《答弁》

保護者に丁寧に説明するなど、理解に努める

【教育長】教育委員会では、有識者や幼稚園関係者を交えて議論を重ね、長い時間をかけてまとめた「名古屋市立幼稚園の今後のあり方に関する実施計画(案)」をこの4月に公表したところでございます。

計画案の中では、今後の幼児人口の減少や保育ニーズの高まりにより、市内の幼稚園定員に大きな余剰が出ると見込まれることに対応し、市立幼稚園23園のうち3園を順次閉園することといたしました。

閉園にあたっては、現在の在園児の方は卒園するまで通っていただけるなど、在園児や保護者への影響が極力出ないように配慮しております。

教育委員会といたしましては、閉園を含めた市立幼稚園の今後のあり方につきまして、引き続き保護者に丁寧にご説明するなど、ご理解いただけるよう努めてまいります。

24億円は、28年度の実態把握調査で一定の条件で導き出された係数による試算額。平成29年度に方向性を整理し、平成30年度以降に市民の意見を伺いながら、敬老パスのあり方の方向性を決定したい

【健康福祉局長】利用拡大に必要な資産額24億円という金額は、28年度の実態把握調査において一定の標本数と条作のもとで導き出された係数による試算額でございます。

実態把握調査の結果や、ICカードの年間を通じた乗車実績の分析をもとに、JRや私鉄などへの対象交通の拡大をはじめ、これまで議会からいただいたご要望やご指摘などを踏まえながら、限られた財源の中で、より使い勝手がよく、かつ、持続可能な敬老パス制度に向けて検討を行うこととしております。

平成29年度におきましては、市としての考え方の方向性を整理し、平成30年度以降に、市民の皆様のご意見を伺う機会を設けながら、敬老パスのあり方の方向性を決定してまいりたいと考えておりますので、ご理解を賜りたいと存じます。

《再質問》

一部負担金をあげずに、利用拡大をしていくのか

【くれまつ議員】それぞれご答弁いただきました。

敬老パスの利用拡大についてです。

健康福祉局長からは、ＩＣカードの年間を通じた乗車実績の分析をもとに、ＪＲや私鉄などへの対象交通の拡大について限られた財源の中で、持続可能な敬老パス制度を検討していく、市としての考え方はこれから検討という答弁でありました。

ここで、市長に再質問します。

敬老パス値上げ絶対ストップとのマニフェストに書かれていますが、名鉄、ＪＲ等私鉄へ拡大を検討するうえで、一部負担金をあげずに、利用拡大をしていくという立場で検討するというお考えですか。

値上げはしません

【市長】値上げはしません。マニフェストに書いてある通りです。昨日質問があったように、もっと儲けるように、市民経済局と一緒に敬老パスを使ってもらって、タクシーもうまく使ってもらって。１割引はどえらいですよ。タクシー乗りますとみんな言っております。年をとると足が悪くなりますし。そういうところでも、「敬老パスを使って、値引きして下さい」と交通局が頼みに行かなければいけない。そういう流れを作っていくということでございます。

（意見）65歳以上で負担金を引き上げず、事業費上限は取り払い、名鉄、ＪＲなど私鉄への利用拡大を早期に実現を

【くれまつ議員】一部負担金は上げずに、利用拡大すること確認いたしました。敬老パスは、本当に名古屋の福祉の象徴となる制度です。全国に誇れる施策です。

敬老パス制度は、経済効果は３１６億円。事業費の２倍の経済効果があります。健康効果、環境効果もあるすぐれた施策です。敬老パスの根幹のしくみ、すなわち、６５歳以上で負担金を引き上げないこと、このしくみは守り、これ以上の負担増を行わず、敬老パスの事業費上限は取り払い、名鉄、ＪＲなど私鉄への利用拡大を早期に実現するように要望しまして、敬老パスの拡大の件は終わります。

（再質問）

将来人口の増加が見込まれる地域の幼稚園も閉園するのか

【くれまつ議員】教育長の答弁は、市立幼稚園の保護者の願いを全く受け止めないものです。納得がいきません。

閉園理由で、市内の幼稚園定員に大きな余剰が出ると見込まれるからとの答弁がありました。はとり幼稚園の保護者の方から、幼稚園のある千音寺学区の小学校の１年生は５クラスでこどもの数は多い。３８haもの広大な土地の区画整理事業で将来

人口が増えていくと予想されている。将来人口が増えそうな地域の幼稚園も閉園するのでしょうか。

将来人口の増加を加味しても影響を及ぼすには至らない

【教育長】閉園となる対象園の選定につきましては、周辺に複数の幼稚園があることも考慮しており、区画整理事業等に伴う将来の人口増加を加味しても、未就園児の入園に影響を及ぼすには至らないと考えております。

地域にとけこんだ市立幼稚園の実践をなくしてもよいのか

【くれまつ議員】教育長は、はとり幼稚園がある地域では、区画整理事業などで人口増加が見込まれることはお認めになりました。区画整理で若い方が増えていけば、授業料が私立と比べて安い市立幼稚園に預けたい方も増えていくと思います。

保護者のみなさんは、本当に閉園発表に戸惑い、疑問が広がっていますので、再度教育長に伺います。

はとり幼稚園は、「富田公園や富田図書館に隣接し、こどもの心身の成長にとって大変素晴らしい幼稚園。地域にとっても大切な幼稚園である」と地域から高く評価されています。保護者からは、幼稚園の閉園方針の見直し、地域における幼児教育の重要な拠点として存続することを強く要望されています。

報徳幼稚園は地域の子育て支援センターとして、保健所や民生委員からも頼りにされていると、同じ地域にある別の子育て支援センターの方が評価されています。また周辺が高齢化している地域ですので、ここに報徳幼稚園があることで、高齢者の方が、園の行事のボランティアに参加されて、高齢者の憩いと生きがいの場になっているという話を伺っています。

こうした地域にとけこんだ市立幼稚園の実践を地域からなくしてもよいのでしょうか

幼児教育センター（仮称）を設置し、幼児教育の質の向上に取り組む

【教育長】国においては、平成 28 年度に、幼児教育の調査研究の拠点施設として「幼児教育研究センター」が設置され、質の高い幼児教育への取り組みが進められております。

本市におきましても、幼稚園、保育所、認定こども園等の子どもたちに提供される幼児教育の調査研究や研修などを行う拠点施設として「幼児教育センター（仮称）」の設置を予定しており、市立幼稚園で行っている幼児教育の実践内容を踏まえ、各園と連携して本市全体の幼児教育の質の向上に取り組んでまいりたいと考えております。

センターが連携すべき、素晴らしい教育実践を行っている幼稚園をなくそうとしていることが問題だ

【くれまつ議員】教育長は、「幼児教育センター」を設置して、それぞれの市立幼稚園と連携して幼児教育の質の向上に取り組んでいくと答弁されましたが、センターが連携すべき、素晴らしい教育実践を行っている幼稚園をなくそうとしているのが問題なのです。幼稚園が地域にねぎして、保護者と地域の方たちと作り続けている実践が、幼稚園の閉園によりなくなってしまいます。結果として地域のコミュニティが破壊されてしまう、このことを指摘しております。

もう一点伺います。3つの園では保護者のみなさんが幼稚園を盛り上げていこうとがんばっておられるのを私は聞いております。3つの園ではこれから入園を考えている「未就学園児」を対象にした「未就学園児の会」を開催しています。例えばはとり幼稚園では、年24回も実施しています。今年度も入園児が減ってきているために、ある幼稚園のPTAではホームページを作って入園児を増やそうとまさに計画していたといいます。こうした、保護者のみなさんが、園児を増やす努力をされているのを、教育長はご存知でしょうか。

成長には一定の園児数が必要。3園は園児の充足率が十分でない

【教育長】市立幼稚園の園児数の減少が続いている中で、園児の確保について、日ごろから保護者の皆様方にご協力いただいていることに対しましては、大変ありがたく思っております。

今回の実施計画案におきましても、園児が集団生活の中で関わり合い、学び合いながら成長するためには一定の園児数が必要であると考えておりますが、開園を予定している3園では、園児の充足率が十分でない状況でございます。

（意見）今回の閉園計画は、園児の確保に努力している保護者の努力に冷や水をあびせるもの。見直しを求めます

【くれまつ議員】3園の保護者のみなさんは園児を確保する努力をされております。今回の閉園計画は、こうした保護者の努力に冷や水をあびせるものです。保護者の方がお聞きになったら、悲しくなるのではないのでしょうか。

2万人を超える幼稚園存続を求める要望書の重みを教育長しっかりと受けとめてください。保護者の願いは、「私たちの幼稚園を残してください」です。

保護者の願いを受け止め、幼稚園3園の閉園計画を見直すことを強くもとめて、質問を終わります。